

溺れる者は藁をもつかむ！

網走は厳寒だが何犯あっても仮釈くれる？

役人に約束を守った話はないんだと知りつつも

もしかしたら？　みんなそういうから……

「しまった！」と思った時は波の上

五人一連の手錠と腰縄で最下船倉へ！

喰う、吐く、糞小便五人一連の二昼夜！

眠りもなれず精根尽きて網走駅に着く

待構えるトラクタで人里離れた「網走番外地」

役人の態度ガラリと変り！

「——昔はな、囚人船でこの川を下ってなア

ほれ、そこに降りてくる鉄の水門があるなア

その水門の処で己が妻を写し泪するんだなア

して、お前達の先輩が泪橋とか鏡橋とか呼ぶんだア

この橋を渡る以外生きて内地には帰れないのだア

いかア

こっちを無事に抜ければその先はオホーツク海だア

そっちは網走湖だア

その先は疲れた頃に海だア

あつちには裏山でお前達の先輩の墓と死ぬまで行っても岩山だア

そして向うは安全なお前達の住いだア

「分かったかア！」

変な気を起こさんで慈悲をもらい、早く内地へ帰れる様に一生懸命

働くことが一番なのだ　「分かるかア！」

分かったら向うへ行つて先輩に教えてもらえ！」

五月にて納入れ着て雪焼けの青黒い顔

暗い空へ首まで突っ込んだボブラ並木が威嚇する

役人がズルイと怒っているのか！

ルンペンはいつも満期だったではないか！

「——短気を起こさずまっすぐ東京へ帰って下さいネ

賞与金は汽車が動く時渡す規則ですから

一緒に駅まで行きましょう　ホントに御苦労さんでした」

威嚇的だったボブラ並木までが笑っている

「また来いよ」と

「バカヤロ！」と叫んでも空しい……

昼休みを遊ぶ様々の顔が羨望で俺を覗る

淋し気に笑い悪友を見付けて……

声をかければ残るあいつに「反動」が待っている

眼で語る息苦しさに詫びて背を向ける

——みんないい奴だった

泪橋！　鏡橋！　を憤懣が一步一步と……！！